

平成 29 年度
「舞鶴版・地方創生についての市民レビュー」

報 告 書

平成 30 年 1 月

平成 29 年度『舞鶴版・地方創生についての市民レビュー』 市民の提案・意見のまとめ

11月19日に開催された「市民レビュー」では、市民の皆さんからたくさんの意見・提案、感想などが出されました。市民の市政への参加意欲をさらに高めるためにも、市がそれらの意見等をきちんと受け止め、可能なものは今後の施策に活かす方向で検討を進めていただくよう、お願いいたします。

平成 30 年 1 月 12 日

平成 29 年度「舞鶴版・地方創生についての市民レビュー」

コーディネーター 窪田 好男

【主な提案・アイデア】

1. 多くの市民が市の取組を知らない。子育て情報、検診の重要性、健康づくりイベント情報、舞鶴の歴史・文化の魅力、公共施設の情報などの情報発信を積極的に行う。
2. 西地区にはたくさんの歴史・文化の地域資源がある。東地区の赤れんがや引揚記念館と同様に、多くの観光客に来てもらえるよう、誘導ルートを作ってほしい。
3. 地域資源の活用について、市民や様々な関係者と話をしてほしい。
4. 受益者負担の適正化の取組は必要であると思うので、市民の意見を聞き、丁寧に取組を進めてほしい。

【意見・感想】

1. 市民自身が検診や健康づくりに意識を持つことが大切。
2. 乳幼児への支援は他市に比べて進んでいるので、小学校から 18 歳までの取組もさらに充実されると良い。
3. 検診の受診率向上には、事業所などの協力も必要。
4. 全国でも、舞鶴ほど地域資源に恵まれたまちはない。その魅力を市民が知り、その良さをアピールする必要がある。
5. 公共施設の設置目的などもあるが、ニーズがなくなり、利用が少なくなった公共施設については、施設のあり方などを再検討をする必要があると思う。
6. 市民レビューでいろいろな人と意見交換でき有意義だった。課題もあるが、市は様々な取組をしており、舞鶴がより良いまちになることを期待している。

平成 29 年度『舞鶴版・地方創生についての市民レビュー』まとめ

《今年度の市民レビューについて》

◆日時と場所 平成 29 年 11 月 19 日（日）9 時～14 時 30 分 市政記念館ホール

◆概要

舞鶴版・地方創生を市民と一丸となって推進するため、「政策・事業の PR」、「市民の意見聴取」、「市民意見の事業への反映」「市民の市政参画」を進めることを目的に実施。

第 1 部では、市のこれまでの取組と今後の方向性について、多々見市長が説明。

第 2 部では、舞鶴版・地方創生の 3 つの重点施策の取組について市が説明した後、市民審査員が意見交換と評価を行った。

◆参加者

◇ コーディネーター 窪田好男 京都府立大学公共政策学部教授

◇ コーディネーター補助員 6 名（京都府立大学大学院公共政策学研究科 大学院生、公共政策学部 学部生）

◇ 市民審査員（14 名）

みらい戦略推進会議 6 名

（舞鶴商工会議所、京都北都信用金庫、舞鶴市スポーツ協会、舞鶴自治連・区長連協議会、舞鶴市民生児童委員連盟、NPO 法人まちづくりサポートクラブ）

学生 2 名（舞鶴工業高等専門学校、京都職業能力開発短期大学校）

市民（無作為抽出での依頼）6 名

◇ 事例発表者 大樹会 1 名

◇ 傍聴者（75 名）

◇ 事務局（27 名）

◆内容

【第 1 部】舞鶴市のこれまでの取組と今後の方向性について 多々見市長によるプレゼン

【第 2 部】市民レビュー

「交流人口 300 万人・経済人口 10 万人のまち」を目指す中での重点施策について

3 つのテーマについて市民審査員による意見交換・評価。

●第 1 テーマ「安心して健康に暮らせるまちづくりの推進」

※事例発表（大樹会「認知症の人と一緒にタスキをつなぐRUN伴」の取組 の発表あり

●第 2 テーマ「地域資源を活かしたまちづくりの推進」

●第 3 テーマ「時代の変化に合った行政のあり方」

第 1 部 舞鶴版・地方創生について

(1) 市長あいさつ

お休みの日にたくさんの市民に集まっていたいただき、ありがとうございます。

私が市長になってから7年。市のこれまでの取組について説明し、市民の皆さんの意見をお聞きし、修正すべきものは修正していきたい。

(2) 市長によるプレゼン「舞鶴市のこれまでの取組と今後の方向性について」 (資料による)

舞鶴市の取組について
説明する市長



第2部 市民レビュー 「交流人口300万人・経済人口10万人のまち」を目指す中での重点施策について」

第1テーマ 『安心に健康に暮らせるまちづくりの推進』

(1) 担当課による説明(資料による)

(2) 事例発表(資料による)

「認知症の人と一緒にタスキをつなぐ

RUN伴の取組について」大樹会が発表

(3) 意見交換(市民審査員)

コーディネーターからの提案

- ◇ 行政がやっていることをより良くするという視点と市民や民間でできることという視点がある。さまざまな点について意見交換をいただきたい。



大樹会の発表の様子

① 取り組みをより良くするためには

取組全体について

- 健康づくりの活動や検診について、もっと広報すべきだ。

子ども世代

- 相談窓口を地域に近い公共施設に、町の中に子育ての相談窓口サークルがあるのが良い。
- 舞鶴は自衛隊のまちで、若い夫婦が子育てする時に祖父母が身近にいないため、他人に頼らないとやっていけないケースもある。中総合会館に「子育て支援基幹センター」があるが、あまり知られていない。「あそびあむ」ができて良いと聞いている。もっと知ってもらえるようにした方がよい。
- 民生児童委員が3～6ヶ月の赤ちゃんを訪問する事業をしているが、赤ちゃんについてのささやかな悩み相談を子どもを持つ母親同士で行う交流の場を求める声を聞く。
- 生まれ月が近い妊婦さんを対象に「プレママ友講座」のようなサロンを開いたらどうか。
- 夜泣き時でも24時間かけこめるシェルター的な場所が効果をあげていると聞いたことがある。
- 舞鶴市に約10年住み、子育てしてきた中で、地域に相談窓口(買い物に行くついでに子育ての相談ができるような場)があったら良いと感じていた。
- 子育て包括支援センターは良い。小学生になると教育の面でも問題が出てくる。小学生以降も各機関が連携してトータルの支援があると良い。出産から18歳まで「切れ目のない支援の充実」は必要だと思う。
- 現在、西市民プラザの空き部屋を小学生に使わせている。小学生への支援を具体的に検討してはどうか。子ども食堂、勉強・悩みの相談体制もできるようになればいいと思う。
- 市民プラザでは「にこにこ(250円)」という食堂を月1回実施しており、高齢者や子

ども連れの母親がよく来られ、喜ばれている。このような取組を広げていくべきではないか。

- 母子家庭へのケアが大事。母子会は、他市に比べて充実しており、土日や夏休みに子どもの学習会をしていると聞いている。もっとPRして、必要な人には知ってもらいたい。
- 母子会に比べ、父子会は最近活動が停滞していると聞くので、活動が活発になると良い。

働き盛り世代・高齢者世代

- 文化公園体育館で高齢者の体力測定や検診がされたことがあった。もっとPRすればさらにたくさんの方が参加できたと思う。自分の健康年齢を知れ、歯科健診、血液検査、運動能力等も測定でき、とても良かった。このような取組を定期的にするとうまい。
- 町内や施設ごとのイベント案内が足りない。
- 健康づくりをしている人がしていない人を誘うのが良い。市民が市民を誘い、誘われた市民がまた別の市民を誘っていけば良い。
- 職場の検診で病気が分かり、受診した経験がある。働いている人にとっては検診の時間や曜日もポイントになるので、検診の実施日について検討した方が良い。
- 夜間の健康講座を開催してはどうか。
- 町内の集会所で、平日・土日・祝日の健康相談、検診をもう少し増やしてほしい。
- 健康に無関心の人には、内心では「やばいな」と思いながら忙しくて自分のことにかまえない人が多いと思う。そういう人に対しては、事業所に働きかけて、義務的にやらせることも考えた方が良い。
- 仕事をしている時間帯に検診に行きにくい。企業が従業員に働きかけるのが一番良いと思うが、行政から半強制的に働きかけがあると企業は取り込みやすい。広報紙に検診の受診について働きかけがあると良い。
- 乳幼児の健診の受診率が90%以上というのは素晴らしい。高齢者は年齢とともに健康に注意するようになるが、問題は「自分は健康」という思い込みがある働きざかり世代だ。今後は「知らず知らずのうちに健康になる」がポイントだと思う。趣味としてスポーツをすることで、健康に嫌でも関心を持つようになると思う。
- 市民の特定検診のPRが必要。
- 健康であることが社会貢献でもあるので、市民一人の医療費がいくらかなどを示して、意識を高めることも必要。

知らず知らずのうちに健康になるまちづくりについて

- 生き生きトレーニング、地域のサロン、民間のトレーニングがあり、それぞれがどのような内容で対象は誰なのか、曜日や内容を分かりやすくPRすると良い。
- 公共交通の利用促進は観光客の増加にも繋がるため、進めるべき。バスの本数を増やす。
- ウォーキングコースの充実、運動施設の充実が必要。
- 健康づくり事業（ウォーキング等）のPRを強化する（SNS、広告）。

② 市民ができること

取組全体について

- 1人1人が関心を持つ。情報共有を進める。
- それぞれが情報をスムーズにキャッチし、広げて行く努力が必要。

子ども世代

- 昔の大家族世帯のように見守る人が必要だが、不審者に思われてしまうので、なかなか声掛けできない。

働き盛り世代・高齢者世代

- 私も検診案内をもらっていたのに行かないことがあったので、気をつけたい。
- 参加することが大事。無関心はダメだ。
- 市民同士の声掛けにより参加しやすい雰囲気を作る。(参加したいと思える特典があるとモチベーションUPにつながるのではないか)
- 上司から部下に検診に行くよう指導する。
- 職場で健康への意識を高める。

知らず知らずのうちに健康になるまちづくりについて

- 地域での小単位での集まりを大切にする。
- 青壮年会、老人会と行政の連携。

③ その他

子ども世代

- 子育て支援体制は十分整っていると思うので、このまま継続してほしい。

働き盛り世代・高齢者世代

- 御主人の社会保険の扶養に入っており、健康診断を受診する機会がないという人がいる。
- スポーツや運動を始めたいと思った時、相談や紹介をする窓口があれば、運動する人も増えるのではないか。
- ウエアラブル事業については、働き盛り世代、家族向けに大いに促進させ、家族、知人に輪を広げて行く。
- 高齢者ができる運動を知らせてほしい。

知らず知らずのうちに健康になるまちづくりについて

- 地域の活動が盛んな地区は健康度が高いと言われるので、地域の活動の拠点となる場所が必要。集会所のない地域があるので、空家の利用を考えたらどうか。
- 既存の遊歩道の整備

(参考：傍聴者の意見)

① 取り組みをより良くするためには

取組全体について

- 市民へのPR、周知徹底の工夫をする。

- 年齢を超えた交流の場を考える。
- ドラッグストアに相談員をおき、子育て、健康管理など気軽に相談できるようにする。

子ども世代

- 地域の公民館を使って夏休みに老人会が小学生への支援をしている例がある。
- 図書館を子どもの遊びスペースに活用する。
- 6～18歳についての取組がほしい。
- こんにちは赤ちゃん訪問（民生児童委員の訪問）をやっているが、近隣の市町村では助産師が訪問をしているところもある。育児の孤立化を防ぎ、産後うつなど複雑な兆候を受け止めるには導入を検討してほしい。
- 若年の母親への援助を考える。
- 窓口が開いている時間に連絡できない人、来庁できない人向けに、メールでのやり取りで対応できるネットを活用した相談システムを導入する。

働き盛り世代・高齢者世代

- 生涯学習プランの設計が必要。
- 特定検診や特定保健指導の実施率の向上のため、重要性をしっかりと周知する。また、仕事等との都合がつけやすい日程にするなどを検討する。
- 健康寿命を延ばすことは医療費の削減につながることから、がん検診の受診率を上げる取組を進めるべきだ。受診率が上がらない原因の検証が必要。
- 健康に関心がない方（特に働き世代）へのケアが大切。市の施策やサービス内容を伝えることが重要である。例えば、車の免許更新時に視力検査をするように、半強制的でも、市民が健康に関心を持つ機会を作ると良い。
- 企業が1日年休などを進める。
- 地域で健康体操を定期的を開催する。
- 自宅でもできる運動を広報紙に掲載すると良い。
- 西運動公園を使った大会やスクール等を開催する。

知らず知らずのうちに健康になるまちづくりについて

- ペットの憩いの場を作れば、ペットを飼っている人の健康につながるのではないか。
- 車から自転車にシフトすると運動につながる。自転車が通りやすい道路に改造する。

② 市民ができること

取組全体について

- 口コミで友達同士で情報共有、情報拡散して、イベント参加者の増加に繋げる。

子ども世代

- 地域の子育てイベントなどを紹介するボランティアグループを作ることができないか。

働き盛り世代・高齢者世代

- 自分自身が安心・健康に気を付ける啓蒙を行う。
- 車の使用回数を減らす。
- 若いうちから運動する機会を作りたいと思うが、忙しくなかなか難しい。

③ その他

子ども世代

- 不登校や引きこもりに対するカウンセラーの充実。

働き盛り世代・高齢者世代

- 健康相談がいつでもできるホームドクターを市民全員が持つような紹介制度や割り当て制度を創設する。
- がん検診の受診率を上げるために事業所と行政がどのように手を組んで行くか、どのようなアプローチができるのかを考える。

知らず知らずのうちに健康になるまちづくりについて

- 交通機関を利用することは車の使用を控えることに繋がる。バスの乗車率を上げられればいいと思う。
- 公共交通の利用促進とコンパクトシティ、歩行環境の整備が例として上げられたが、これだけマイカーに頼る現状では、そのイメージが湧かない。
- コンパクトシティには賛成。公共交通のさらなる充実を望む。東西間JRの最終 22 時は早すぎる。ゆっくりお酒も飲めない。
- ペット（犬）を飼うことが健康に良い影響を与える（一人で暮らしている人の効果が高い）という研究成果がある。保健所にいる犬や猫、その他動物を引き取って飼ってもらえるのはどうか。
- 健康だけにとらわれず、様々な分野とコラボすることでいろいろな人へ広げられるのではないか。（遊びと健康、音楽と健康、教育と健康、食べ物と健康、観光と健康）

その他

- 西舞鶴道路の建設は良いと思う。高齢者が増える中、交通事故が増える可能性がある中で、カーシェアリング等、車を必要としない町づくりを訴える。
- 子育て世代のUターンの人々の保育所への受け入れを年度途中でも受け入れ可能にする。Uターンしても子どもの保育がないと働けない。
- 少年野球、少年サッカー等での親（母子家庭も含め）の負担（当番、金銭等）が軽減できる事業ができないか。

≪市担当課からの補足≫

「子ども何でも相談窓口」は平成 28 年 7 月に京都府内で初めて設置したものの、乳幼児についての悩み相談から、母子家庭の相談、小・中学校のいじめの問題も含め、切れ目のない対応をしようと取り組んでいる。相談件数も増えている。

その他、市内に子育て相談窓口として子ども支援センター（5か所）を設けている。

自衛隊の若い夫婦など、親族に相談が難しい方などもおられ、そういう相談に応えたい。働き盛り世代、高齢者の健康づくりとして、「知らず知らずに健康になるまちづくり」を進めて行きたい。

（４）市民審査員 評価結果

	① より力を入れて推進する	② 今のやり方で進める	③ やり方に工夫が必要
取り組みの方向性	6	6	1

※無回答1

（５）コーディネーターによる総括

- ◇ 生まれてから死ぬまで健康であることが本人にとっても社会にとっても好ましいとのことで、さまざまな取組をやっている。舞鶴市独自の取組も行う中で、成果を上げていることもある。
- ◇ 歩くまちづくりを進める方法として、例えば、歩道に芸術作品を置いてそれを見ながら楽しんで歩けるような工夫を考えてみてはどうか。
- ◇ 検診の受診率向上に向けた効果的な取組アイデアはこれからというところであり、運動の習慣づけの取組は、家族で取り組むイベントなどを行っているという報告を受けた。市民審査員からは、「より力を入れた推進」「今のやり方で進める」という意見をいただいた。



意見交換の様子

第2テーマ 『地域資源を活かしたまちづくりの推進』

(1) 担当課による説明（資料による）

(2) 意見交換（市民審査員）

コーディネーターからの提案

- ◇ 「観光交流人口の拡大」と「お金を稼ぐ」という目的で、観光ブランドを確立し、地域資源を活用するというもの。
- ◇ 舞鶴には、東西の地域資源が多くあり、行政はそれらを政策で活かしたいと思っている。
- ◇ 民間でもできることがあるのではないかとという視点でも話合ってほしい。

① 取り組みをより良くするためには

取組全体について

- クルーズ船の観光客は、舞鶴での滞在時間が短い。舞鶴から乗船する人の乗船前日、舞鶴で下船する人の翌日なども含めて、旅行会社や船会社へPRが必要。舞鶴にはカキ・貝・万願寺などの魅力があり、それをPRして人を呼ぶのはどうか。最近NHKの番組で舞鶴の海軍カレーが紹介されて非常に良かった。
- 舞鶴の観光は東舞鶴の引揚記念館・赤れんがが中心になっている。最近、引揚記念館に多くの台湾人が訪問しているが、台湾で「岸壁の母」がテレビで大々的に報道されているからだと聞く。このような視点を西舞鶴の観光づくりに入れるべきだ。市民の興味関心をくすぐることで、人に来てもらってお金を落としてもらいしくみができると思う。
- お土産屋が少なく、観光客にお金を使ってもらえない。商店街にお土産屋を作ることはできないか。
- 舞鶴の文化や歴史を小中学生に学校教育の中で教え、親へも情報を伝えるのが良い。
- 信用金庫「年金友の会」などと連携して観光客を呼んでいる。さまざまな業界へPRすることが大事。また、旅行会社では分からない地元の情報を提供することも魅力になる。特色あるものを作っていくことが必要。
- スイーツやおいしい食べ物巡りなどを考える。
- 舞鶴にはいろんなブランドがある（カレー、万願寺など）。ブランドカレーは、普通のカレーよりも値段が高くて売れるが、大量生産できないという悩みがある。何かしかけができればと思う。
- 多くの遺跡や景観が点在しているので、結んで線とする。海鮮料理が食べられるルートをいくつか作ってはどうか。
- クルーズ船から赤れんがへ、赤れんがから西地域へつなぐループバス（交通機関）の整備をしたらどうか。
- 自衛隊のアニメもあり「艦これ」は人気がある。アニメのイベントを増やすと良い。
- 軍艦通りをもっとPRする。
- スタンプラリーで舞鶴産の賞品をプレゼントしたらどうか。
- 市民も知らない地域資源があるため、パンフレットの作成、グッズの作成、インターネットで地域の良さを発信すると良い。市民自身がもう一度訪れてみたいと思うまちづくりが必要だ。
- 地域の宝を発見するため、市民から提案書を提出させてはどうか。

西地区の地域資源の活用について

- 西舞鶴は古い町で歴史があり、歩いて回ると非常におもしろいが、ほとんど観光客が来ていない。クルーズ船の観光客が舞鶴に滞在していないことは問題だ。
- クルーズ船下船後の観光先は、船に乗っている間に決めているので、舞鶴での観光メニューを作る必要がある。
- 西地区には古い寺もたくさんある。クルーズ船を歓迎する旗がたくさん立っていても、町なかで観光客が歩いている姿を見かけない。駅には観光ステーションがあるが、港から遠い。港にも観光ステーションを作り、そこから自転車で町なかを回るしくみがあると良い。また自転車を乗り捨てられるスポットがあると良い。
- レンサイクルを西市民プラザに置いていたが、全く利用者がなく、西舞鶴駅に戻した経緯があり、レンタサイクルをどう使うかをもっと議論すべきと思う。
- 西舞鶴にはたくさんお寺がある。1つ1つのお寺が自らPRし、連携することが必要だ。
- 寺院等の特色をPRし、魅力を発掘する手助けを行政が行ってはどうか。
- 吉原には珍しい風景がある。魚・干物などもPRして観光客を連れてくるのが良い。
- 田辺城、城門付近から桂林寺までの八幡通りの景観は素晴らしい。
- 細川幽斎をモデルにした「ゆうさいくん」キャラクターを商工会議所が作った。以前、熊本から「ゆうさいくんに来てほしい」と要望があり、テレビや新聞に大きく掲載されたこともある。他市との連携を視点に入れたらどうか。
- 最近ゆうさいくんの新商品が出ていないし、着ぐるみもあまり見かけないし、活動が縮小されている気がする。舞鶴のグッズはセンスが良いので、商工会議所と連携して、新商品を発売してほしい。
- ゆうさいくんグッズについては、意見を踏まえ、前向きに考えたい。自衛隊は観光資源であるのに自衛隊グッズを売っているところがあまりない。町なかにアンテナショップを作ってはどうか。
- 新商品の開発に補助が出ると、動きが活発化するのではないか。
- 赤れんがを紹介する「赤れんが倶楽部」と同じように、田辺城をメインとする案内ボランティアがあったが、現在あまり活動していない。市民グループを育てる必要がある。

② 市民ができること

- 明治時代の遺跡、戦前の砲台跡の整備等を市民やボランティアで取り組んではどうか。
- 市民ボランティアになる。
- 企業レベルでの商品開発や事業開発の努力が必要。
- 市民の学習が必要。町を好きになるための勉強会などの機会を作る。
- 舞鶴の魅力を市民も知り、その良さをアピールする。
- ふるさと学習の推進。大人はもっと頑張って他地域の知人・友人へ広報する。

③ その他

- 引揚と同じように、ふるさと教育として、子どもたちに西地区の良さを教育し、次世代に継承していく。
- 田辺城グッズ（ファイルやタオル）などを作成する。
- 映画の舞台にも多く取り上げられることも多いので、聖地巡礼で来られる観光客へ分かりやすいグッズ、商品などを作成し、PRする。
- スタンプラリーで舞鶴産の賞品を渡すとまた来たくなるのではないか。

- 約3年前の「艦これイベント」が良かった。その時のスタンプラリーの用紙が有料だったのは、参加ハードルが上がって、もったいなかった。
- リピーターができる可能性が多い資源をどう生かして行くか。いろいろな分野の方々との話合いをもっとすべきと思う。
- 東地区（赤れんが）が特にアピールされているので、西地区も町なかへの誘導ルート、盛り上げ方を作ってほしい。
- 子ども、高校生を取組に取り入れる。
- インターネットを使った市の取組PR動画やふるさと納税等のPRは必須。

（参考：傍聴者の意見）

① 取組みをより良くするためには

取組全体について

- 西港と東港を往来できる定期航路を作り、港から東西を循環できるルートを作る。利用しやすい観光ルートを新設（歴史コース、グルメコース、散策コース、買い物コース等）
- 観光客の増加が町なかまで浸透していない。赤れんがから町なかまでが遠いので、ここを結ぶしくみが必要。
- 市内巡回観光コース（マップ等）を作り観光客へ配布する。軍港、歴史、寺社、引揚の歴史を観光テーマにしてアピールする。
- 市民を巻き込んだ商店街の活性化。
- 土産物、飲食のできる場所を民間と市がタイアップして作る。
- 京都嵐山等の人力車と同じようにタクシー等の自由がきく公共交通機関と連携し、観光地を結ぶと良い。
- バスを充実させ、地域資源をバスで結ぶ。
- 魅力的と紹介された場所が外から見れば、魅力的に見えていない。必要なのは、「何がある」ではなく「何をする」という視点（例えば、運河で「ミニクルーズ」ができるなど）ではないかと思う。
- 発信力の強いPR（メディア、SNS）の推進。
- 地域資源を市民が認識するための教育・広報を充実させる（定期的に講演会を開催）

西地区の地域資源の活用について

- 吉原の万灯籠に、クルーズ船で来た夫婦が参加し「船内で案内されるイベントは高価で、吉原のツアーはとても楽しかった」と言っていた。昼食込2,500円～3,500円前後の自転車で回れるツアー（かまぼこ体験含む）などを紹介すると良いのではないか。
- 愛宕山の活用を考えると社寺の観光にもつながる。
- 観光客から西地区の商店街がどこよりつまらない・楽しくないという声を聞く。近くのコンビニやとれとれセンターばかり繁盛しているのではだめだ。

② 市民ができること

- 市民が市内の観光地や名所を説明・案内できるように基本的な情報を身につける。
- 舞鶴の観光資源を守るためのアピールを市民がする。観光案内できる人材を作る。
- SNSを使って自分が情報発信する。
- 市民ひとり一人が地域資源をよく知り、地域を誇ることができるようになる。
- 市民挙げてのお客様へのおもてなしは挨拶だと思う。外国の方を笑顔で迎えることくら

いできると思っている。

- 登山道の整備。植樹（花等）などを行う。

③ その他

- 舞鶴の観光キャッチフレーズを作ったらどうか。（例：「2つの歴史の顔を持つ街・舞鶴」）観光ポスターにも東西の観光地を掲載する。
- 5市2町が連携して観光を推進する。舞鶴で観光し、天の橋立で宿泊、京丹後でかに三昧というような観光プランづくりをしてはどうか。
- 地域資源を考える時に、どうしても内向きな発想になりがちなので、観光の視点として、「赤れんが」「とれとれセンター」を除外して再検討するのもアイデアだと思う。市外の市民にヒアリングするのも必要と思う。
- それぞれの地域資源を良く研究することが大切だ。万人うけするようなところもあれば、一部のマニアにうけるようなものもある。それぞれターゲットを絞るべき。
- 舞鶴ほど地域資源に恵まれたまちは全国でもまれだ。生かすも眠らせるも市民の目線次第だ。
- 豊富な資源を知らせることが重要。大手旅行社などにPRする。
- FMまいづるを商店街で流したらどうか。観光客に地域の情報を聞いてもらえると良い。
- 行政だけではなく市民や民間、市内全域で盛り上げることが必要。

《市担当課からの補足》

クルーズ船がたくさん入ってきている。舞鶴での滞在を促すため、町なかを歩くしかけや商店街を中心としたイベントの開催、5カ国語の港からのマップの作成などを行っている。

観光客は事前に目的を決めて下船しているので、魅力あるコンテンツ、行きたいと思わせるものを作ることを課題と捉えている。西地区の寺社仏閣、歴史の道、吉原の入江などの魅力をブラッシュアップしたい。インバウンドへの対応もしたい。

(3) 市民審査員 評価結果

	① より力を入れて推進する	② 今のやり方で進める	③ やり方に工夫が必要
取り組みの方向性	10	3	1

(4) コーディネーターによる総括

- ◇ 地域資源を生かして交流人口を拡大し、地域経済への効果を期待して、さまざまな掘り起こしの結果、観光客が増えているという成果も上がっていることもあり、推進してほしいという意見が多いようだ。
- ◇ 東地区の赤れんがや引揚記念館と同様に西地区の地域資源にも注力すべきではないかとの意見があった。そのためには、行政だけではなく、民間や市民のコアとなる人の活動も必要であるとの意見があった。
- ◇ 市民自身がまちの良さを知り、市民が主体となってまちづくりを進めることも必要だ。
- ◇ 地域資源を市民自身を知ることも大事であり、そういう活動に支援をしてほしいとの声もあった。

第3テーマ 『時代の変化にあった行政のあり方』

(1) 担当課による説明（資料による）

(2) 意見交換（市民審査員）

コーディネーターからの提案

◇ 公共施設は税金で建て、利用者に使用料を支払ってもらっている。使用料は税金をいくらか投入して安く設定されている。税金の投入の度合いがどの程度が適正かという問いがある。また、利用者を増やして収入を増やしていく視点もあるとの説明があった。

① 取り組みをより良くするためには

受益者負担について

- 受益者負担は当然のことだと思う。
- 税金の投入率が多いとの説明があったが、公共施設の本来の目的が達成されているなら、税金投入も仕方ない。どの程度までの税金投入が妥当かについては、分からない。
- 舞鶴市の財政なども考えて幅広い視点で検討しないと適正な料金かどうかは判断できない。また、丁寧に論議をしないと、地域コミュニティや自治会に影響が出るのではないかと心配する。未来を失くすような方向には進んでほしくない。
- 税金の6割負担は多すぎるとは思わないが、減らす努力は必要。

使用料について

- 舞鶴の体育館の使用料は安く、今までそれが当たり前になっていた。安いばかりが良いとは言えない。もし料金が高くなるなら、備品を新しく整備してほしい。
- 民間では施設の利用率が高いところは料金は高く、利用率が低いところは料金は低く設定されている。公共施設でもそのような考え方ができるのではないか。
- 利用率を上げることは指定管理者の意欲も上げることに繋がるので、独自のイベントを実施して利用者を増やしている。
- 利用率の高い部屋もあるが、他の部屋は利用が少ない。利用率が高い部屋の設備を充実させたり、利用が少ない部屋を改造したりして利用の高い部屋に変える必要がある。問題は使う人も限定されている無料の部屋で、そのあり方を考えなくてはならない。
- 利用率の高い施設の予約が取りにくい状況がある。利用者が多い施設を拡大すれば利用率はUPすると思う。
- 利用率を上げる方法について、子どもの学習スペースとして未利用の部屋を解放してあげるのも良いのではないか。
- 健康増進に絡めて、スポーツ施設の利用を増やせば良いと思うが、スポーツは利用頻度が上がるので、料金は低めの設定が良い。
- 学生にとってはジムや体育館の現在の料金はありがたい。

手数料について

- 手数料の原価の範囲について、用紙代、コピー代、人件費、情報を管理するシステム代まで原価にすると相当の金額になってしまう。どこまでを原価にするかによって料金は

変わると思う。

- 手数料はかかっているコストを出しやすいし、市民の利用頻度も少ない。かかっている経費を明確にし、市民に示した上での料金の見直しもありだと思う。

減額・免除について

- 障害者割引については、何人かで利用しているのに、障害者がひとりいると全員が割引になるというのをおかしいのではないか。
- 障害者用のトイレのある公共施設も増えている。障害者が公共施設を利用する際に割引をする意味があるのだろうか。
- テニスコート等は子どもが頻繁に使うので、負担が増えるのは困る。料金が上がるのは仕方ないにしても、子どもたちのためになることには配慮が必要ではないか。

利用促進のための取組について

- 貸館施設については、赤れんがパーク以外、なじみがない施設でピンとこない。市民が利用するきっかけがないのではないか。例えば、市の健康セミナーや育児相談会のようなイベントを市民にあまり知られていない施設で開催し、施設を知ってもらうきっかけにしてはどうか。
- 何かを施設でしようと思った時、部屋の広さは重要なポイントだが、その情報を知ることができない。使用者が知りたい情報が分かるようにしてほしい。
- 施設の情報もHPから取れるようになればよい。
- 市民に空き部屋をアピールして行く必要がある。

利用の少ない施設の方向性について

- 舞鶴には公共施設がたくさんあり、空き部屋があることに驚いた。都会では公民館の中に郵便局があったり、図書館があったり、コンビニがあったり、民間に貸しているところもある。舞鶴でも民間に貸し出ししても良いのではないか。
- 全く利用がない施設はなくしてしまった方が良いのではないか。施設の統合はできないか。管理について、自動化を取り入れることはできないか。
- 施設の統廃合が迫られるが、進めるにあたってはきめ細やかな説明と配慮が必要。運動・文化施設は区別する必要がある。
- 利用度が低いからと言って統合されていけば、過疎地が切り捨てられはしないか。公共施設であるので、利用者が少なくても利用者がある公共施設は存在価値があると思う。利用率ばかりに目を向けるべきではない。

② 市民ができること

- 地域コミュニティと自治会などの取り組みが相乗されるよう、利用効果を上げる。
- 地域でイベントを増やし、利用率を上げて行く努力をしていく。
- 小さな施設利用については、いろいろな用途に合わせた設備を情報交換しあう（食事ができるか、駐車場は大丈夫か、子ども連れでもOKか等）。
- 公共施設について積極的に知る。
- 地域活動で公共施設を利用する。（例：地域の運動クラブが体育施設を積極的に利用する）

③ その他

- 大きな施設は使用料を上げて良いと思う。使用料の値上げによりトイレ等の改善など考えていただければありがたい。
- 使用料や手数料について、1つは無料、もう1つは有料というのは公平性に欠ける。
- 学生等の割引がありすぎると一般の人がなかなか使えない。
- 利用状況がタイムリーに分かるように、ホームページへ掲載する。
- 施設の取組を広報で発信してほしい。
- 舞鶴市の公共施設の利用・予約の仕方を分かりやすくしてほしい。
- 公共施設を勉強場所として開放するのが良い。大人も利用したい。図書館とちがって作業しながら飲食できるのが魅力だと思う。
- 学生が利用するのはラポールしかなく冬 20 時、夏 21 時には閉店してしまい、遊ぶところがカラオケしかない。マリンボールをつぶしてラウンド 1 に建て変えてもらおうと若者も増え、儲かるのではないかと思う。
- 市民レビューでのテーマとして適当ではないのではないか。
- 今後もより多くの市民の意見を聞いた上で調整してもらいたい。受益者負担は必要だと思う。

(参考：傍聴者の意見)

① 取り組みをより良くするためには

受益者負担について

- 公共施設を建てた時代と現在では市民ニーズも変わってきている。(施設設置の目的も考えなくてはならない)。変わってきた中で「あったらいいな」ではなく、市民全体が税負担して本当に必要な公共施設やサービスは何か、施設の大規模改修や更新時の費用負担も含めて議論しなくてはならない。
- 公共施設である以上、税負担は一定必要。

使用料について

- 指定管理者制度の施設とそうでない施設は利用料に差異があって良い。指定管理者施設以外は公共率が高いので安く設定して良いと思う。

減額・免除について

- 中総合会館を度々使用しているが、フレアス舞鶴は、男女共同参画の建て前で使用料をとっていない。中には、ボランティア活動としての意味のないグループが趣味の範囲の活動を行う際に、無料で使用している例もある。体育館では使用料を払っていることを考えると不公平だと感じる。
- 使用目的が公共的なものに関しては、使用料を割引にしてはどうか。

利用促進のための取組について

- 市民プラザに駐車場がない。時間帯で通行禁止がある。この2点が解消されれば、利用者も増えると思う。

- 各施設がどのような使い方ができるかをPRする、備品を追加し用途を増やす工夫をして料金は安いままで利用者を増やすことが大切だ。
- 市内の企業や学校に呼び掛けてモデルとして利用してもらう。

利用の少ない施設の方向性について

- 利用の少ないところは縮小すべき。

③ その他

- 市民会館跡地に図書館ができたらいいなと思っていた。公共施設は利用者の集客も考慮し、市外の人にも分かるようなところに建ててほしい。
- 西市民プラザのトイレは、昼間近隣住民の利用が日常化しており、税金の無駄と常識外れと最近話題になっている。
- 公共施設として本来の目的にかなった使用に関しては、税金の投入も仕方ないが、公平性を考えると、使用しない人の税金としての割合の大きさは検討の余地があると思う。（最低の利用者負担の検討が必要）。
- スマートフォンのマップなどにも料金を掲示した方が良い。
- 手数料は一定のルールで料金設定すればよい。
- 台風の際、西市民プラザは避難場所であったが、浸水し1階は今も復旧していない部屋もある。マニュアル通りにいかないということを念頭に入れて指示してほしい。

《市担当課からの補足》

この取組は平成27年度から取り組み始めている。市民の負担する料金に係わることであり、丁寧に進めたいと考えている。そのため、市民アンケートや各種団体との意見交換を行い、市民の意見聴取に努めている。意見交換の様子は市のHPで閲覧できるし、各施設にもDVDを配架している。

アンケート等の結果を集計し、まとまったら公表したい。その意見を踏まえて取組を進めたい。今後は、まずは、受益者負担のルール（基本方針）をまとめたいと考えており、その後は、各施設の料金について条例を改正し、市議会へかけるスケジュールと考えている。

(3) 市民審査員 評価結果

	① より力を入れて推進する	② 今のやり方で進める	③ やり方に工夫が必要
取り組みの方向性	6	2	6

(4) コーディネーターによる総括

- ◇ このまま取り組みを推進してほしいという意見もあった一方で、やり方に工夫が必要という意見もあった。
- ◇ 難しいテーマであり、方向性をすぐに答えられない人もいた。
- ◇ 公共施設の利用方法についてPRが必要との意見から、おためし利用ができると施設を知るきっかけとなるとの意見もあった。

- ◇ 受益者負担は必要であり、適正な負担は必要との理解はあるが、政策的に軽減する必要がある場合もあるとの意見もあった。
- ◇ しっかりと検討いただきたい。



議論をまとめる窪田コーディネーター

全体まとめ

(1) 市民審査員 アンケート結果

舞鶴市は、これからも住み続けたいまちだと思いますか？

とても思う	思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない
1	8	3	1	1

【理由】

<とても思う>

- 生まれ育った町なので、死ぬまで住み続けたい。次世代にも残して行き、一度まちを出た人でもいつでも戻ってこられるまちでありたい。

<思う>

- 学生時代舞鶴を離れたが、故郷舞鶴との思いが強い。
- 子育て世代にとって、支援の連携もできていて子どもたちが楽しく過ごせる施設も増加しており、とても住みやすいと感じている。安心して暮らせるまちづくりのため、取組もどんどん進んでいるので、これからの舞鶴市が楽しみだ。
- 住むには適度な刺激とやさしい景色、人間関係が良い。ただ、若者には少し退屈で苦しい生活ではないか。
- 何もなければこのまま舞鶴で生涯を閉じたい。雪は降るが、さほどでもなく気候も良い。
- 大阪から就職で来て当初は嫌で仕方がなかったが、何年もかけて歴史やおみやげも愛せるようになった。いろいろ貢献したい気持ちがある。
- 自然環境が良く、都会（京都・大阪・神戸）に近い。
- 住み慣れたところで愛着がある。

<どちらでもない>

- 主人の転勤などにより住み続けることは難しい。海上自衛隊の子育て世代は、ご主人について舞鶴に行きたいと希望される方は少ないと聞いている。
- 長年、舞鶴市に在住しているので愛着はあるが、進んで住みたいとは思わない。
- 長く住んでいると不便なところが多く、一局に機能が集中してほしいと思う。交通など整備してほしい。

<あまり思わない>

- 最近京都に行くことが多くあり、京都の町にあこがれを感じた。舞鶴を出て京都に住みたい。

<思わない>

- 遊ぶところがなく行くところがないので、京都市内か大阪で就職したいと思っている。

(2) 市民審査員の感想

【市民レビューについて】

- ◇ 行政の取組の現状と課題が一部ではあるが理解できたこと。さまざまな人の意見を傍聴でき、参考となった。もう少しテーマを絞り、意見交換する方が良かったのではないか。
- ◇ 無関心は無知にしかつながらない。この場に参加し、足りない頭で一生懸命考えたことは良かった。
- ◇ 年上の方の意見を聞いて結構思うことがあるんだなと思った。舞鶴に住んで短い自分にはわからないことばかりだったので貴重な意見が聞いて良かった。ありがとうございました。
- ◇ よい話を聞いたと思う。
- ◇ 始めて参加したが、舞鶴市の計画や取組が知れているいろんな方の意見も聞け、良かった。
- ◇ 市民レビューで初めて知ることが多くあった。特に舞鶴の求人が全国平均以上であることや客船が30回以上も来ていることに驚いた。もっと舞鶴の良いところを発信していくべきと感じた。
- ◇ レビューの内容が今一つ理解できなかつたことで、発言も聞き取りも消化できずに終わってしまった。
- ◇ 非常に良かった。
- ◇ 自分では言いたいことが言えたが、悪目立ちしていなかったか心配。
- ◇ 市の地方創生策は大変よく練られていると感心した。もう少し具体策を加えるとよい。
- ◇ いろんな話が聞けたのが良かった。こんな機会はないのでありがたい。

【市の取り組みについて】

- ◇ 本日の話を聞いて舞鶴にはまだまだ伸びしろがあると理解した。今後も引き続き協議を続けていただき、より良いものになることを期待している。
- ◇ 若い世代が移住してみたいと思うまちづくりになっていったらいいと思う。中学・高校の学力も上げていかないと難しいと考える。今回参加してみて、舞鶴市は努力されているのが感じられ、良かった。
- ◇ いろいろな意見を聞いて参考になった。魅力的な舞鶴になるために、もっと歴史についても大人も子どもも知るべきだと思った。京都府のPR海の京都とのタイアップなど全面に出してもいいのではないかと思う。

(3) コーディネーターによる意見の総括

- ◇ 行政から、地方創生についての主要な取組について説明いただき、一定の成果も上がりつつあるのが分かった。成功事例も踏まえて他の事業へ広げていくと良いと思う。
- ◇ 市職員にはフレッシュなアイデアを取り入れたり、先進事例を研究したり、数字を使って分かりやすく説明する力をさらに付けることを期待しており、市民は市民参画で市と一緒に取組を進める人材育成を進めてほしいと思った。
- ◇ 市民には、こういう機会に積極的に参加し、市の取組を知って議論をしてほしいと思う。
- ◇ 行政からは簡潔に分かりやすく説明してもらったが、市民審査員の中には、どういう意見を言ってよいのか分からず、理解したところで終わってしまったとの声やもう少し議論の時間があつた方がよいとの意見もあつた。市民レビューの運営については改良の余地

があると思う。例えば、市民審査員に対する事前研修が短時間でもあれば、その雰囲気
が分かり意見交換がより活発になるのではないかと思う。

- ◇ 市民に負担をかけずに行いたいという思いもある中で、事前研修を実施するとなると市民負担が増えることになる。当日のみで行う良さと難しさを感じている。
- ◇ さまざまな自治体で住民参加型の評価の取組をしているが、舞鶴の市民レビューは、市民同士が議論をする点、対決型ではないため行政が市民の意見やアイデアを受け止めやすい点が特徴で新しい取組として成果を認めるところである。
- ◇ 市民には、市民参加と政策評価の取組に引き続き関心を持っていただき、他の人にも紹介してほしい。

閉会式

堤副市長 挨拶

市民審査員の皆さん、長時間に及ぶ議論、早朝より参加いただきありがとうございました。
窪田先生には、難しい役割をお世話になりお礼を申し上げます。

傍聴の方、ご意見をありがとうございました。

本日いただいたご意見はこれからの市政の運営に反映させていきたいと思っている。

舞鶴市は、「情報の公開」、「市民の参加」、「市民意見の政策への反映」を市政運営の
基本としており、平成 23 年度からこのような取組を行っている。できるだけ市民に参加い
ただきやすい形を毎回試行錯誤している。今年度の結果を踏まえて、来年度以降も取り組ん
でいきたいと思っている。

舞鶴版・地方創生の実現は舞鶴市民の力がないと実現しない。幸いにも、目標としている
「交流人口 300 万人、経済人口 10 万人」は 8 割程度達成できてきているが、これからが
正念場なので、市民の皆さんには、市政にさまざまな形でご協力をいただくよう、願
い申し上げます。